

## 愛媛県政課題調査の結果（概要）

調査項目：「仕事と生活の調和の実現に関するアンケート」

### 1 調査目的

第2期えひめ・未来・子育てプラン（後期計画）（R2～R6年度）の目標指標「仕事と生活の調和の実現が図られていると感じる人の割合」に関して、実現状況や必要な取組み等を把握する。

### 2 対象者及び調査方法

県内に居住する18歳～79歳の男女400人を対象としたインターネット調査

### 3 調査期間

令和5年10月11日（水）～10月23日（月）

### 4 概要

#### (1) 仕事と生活の調和の実現状況や必要な取組みについて

##### ○仕事と生活の調和が図られていると実感している人の割合

- ・全体：40.8%（前年度比-0.5%）で、昨年度から減少。
- ・男女別：男性42.6%、女性39.0%と、男性の方がやや高い。
- ・年齢別：40代が33.8%で最も低く、20代以下が58.8%で最も高い。
- ・地域別：東予43.6%、中予40.9%、南予34.8%と、東予がやや高い。

##### ○仕事と生活の調和のために必要な施策（複数回答）

全体としては、「企業による仕事と生活の両立のための各種制度の導入促進」の割合が37.0%（400人中、148人が選択）で、最も高い。

##### ○企業に行動変容を促すために必要な施策（複数回答）

全体としては、「経営者の意識啓発」の割合が54.5%（400人中、218人が選択）で、最も高い。

#### (2) 仕事や働き方について

##### ○仕事を選択する際に重視すること等

- ・家族の状況として望ましい姿としては、「男女ともに仕事をし、家事等もお互いに協力して行っている」と回答した人が63.5%（400人中、254人が選択）で最も多かった。
- ・実際の家族の状況としては、「男女ともに仕事をし、家事等もお互いに協力して行っている」と回答した人が24.3%（400人中、97人が選択）で最も多かった。

##### ○各分野の男女の地位

「家庭の中で」及び「学校教育の分野で」においては、「平等になっている」が最も多かったが、「職場の中で」「地域社会の中で」「社会通念や慣習やしきたりなど」「法律や制度のうえで」「政治の分野で」においては、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の回答が最も多かった。

##### ○現在の就業状況

休日の平均的な家事・育児時間は、「3～4時間未満」と回答した人が22.5%（369人中83人）最も多く、平均3.12時間だった。

##### ○現在の就業状況

本人・配偶者ともに、勤め（常勤）が最も多い（本人42.3%、配偶者38.1%）。  
（「配偶者はいない」28.5%を除く）

## ○労働時間

週の総労働時間（時間外労働含む）40～60時間が32.0%（400人中、128人選択）で最も多く、時間外労働については46.3%（400人中、185人選択）が1年前と比較して「変わらない」と回答。

## ○年次有給休暇

希望する日数が取得できているかについて、「どちらともいえない」が29.0%（400人中、116人選択）で最も多い。

## ○妊娠・出産・子育てを契機とする仕事の形態の変化

第一子出産時期、末子出産時期ともに、「変わらない（又は産休・育児休業中）」が最も多い（第一子出産時期56.1%、末子出産時期57.7%）。（「（対象となる）子どもがいない」を除く。）

第一子出産時期の平均は1998年。末子出産時期の平均は2000年。

## ○育休等取得希望

- ・育休について、「取得したい」が56.0%で最も多い（400人中、224人選択）。
- ・取得を希望する場合、希望の期間について「24か月以上」が17.1%（158人中、27人選択）で最も多い。
- ・取得を希望しない理由として、「育児休業を取得すると収入が減るから」が34.0%（53人中、18人選択）で最も多い。

## ○子育て支援の充実を実感している人の割合

22.5%（400人中、90人が選択）

「あまり感じない」が40.8%（400人中、163人が選択）で最も多い。